

平成24年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

| | |
|------------|--|
| (1) 学校教育目標 | 1 自主的精神に充ち、豊かな教養を身につけた人間を育成する。 2 個人の価値を尊び、敬愛の念をもち、協調性に富む人間を育成する。 3 常に全体の一員であるという自覚をもち、責任を重んずる人間を育成する。 4 心身の健全なる発達を図り、公正なる判断力を養い、進んで実行する人間を育成する。 |
| (2) 現状と課題 | 1 本校は、上級学校進学率が8割を超す県内有数の進学校であるが、地域社会を牽引するリーダーの育成や医師不足対策など、県が抱える課題を克服するために、難関大学及び医学部医学科等への合格者増が期待されている。 2 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業においては、これまで多くの成果を上げてきたが、今年度第2期指定3年目を迎え、より一層事業の改善・充実を図る取り組みが求められている。 |
| (3) 重点目標 | 1 学習指導の充実 |
| | 2 生徒指導の拡充及び心身の健康保持 |
| | 3 キャリア教育の推進と充実 |
| | 4 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の推進 |
| (4) 結果の公表 | 学校ホームページ上で公表する他、次年度のPTA総会で報告する。 |

| | | |
|--|------------|----------------|
| | 学校番号 | 16 |
| | 学 校 名 | 青森県立八戸北高等学校 |
| | 全日制課程 | 本校 校舎 ・ 分校 |
| | 自己評価実施日 | 平成25年 2月19日(火) |
| | 学校関係者評価実施日 | 平成25年 2月21日(木) |
| (9)-イ 学校関係者評価委員会の構成 | | |
| 学校評議員4名 保護者(PTA会長、PTA副会長3名、PTA母親委員長)5名 計9名 | | |

| 自 己 評 価 | | | | 学校関係者評価 | | (10)次年度への課題と改善策 |
|---------|-----------------------------|---|--|-----------|---|--|
| 番号 | (5)評価項目 | (6)具体的方策 | (7)具体的方策による目標の達成状況 | (8)目標の達成度 | (9)学校関係者からの意見・要望・評価等 | |
| 1 | 学習指導の徹底と学力の一層の向上 | ア 基本的な学習態度を育成するために、各教科を通して、授業への積極的な参加、予習・復習への取り組みを促す。 イ 授業時数の確保とともに自習のない完全授業を目指す。 | ア 各学年・各教科ともに、授業を主軸に、各種課題、小テスト、添削指導等を積極的に活用しており、定期考査をはじめとする様々な試験の結果から、ある程度の成果が出ていることが認められる。しかし、学習活動に対する主体性の育成は十分とは言えず、生徒が自主的・自発的に学習活動に向かう指導上の工夫がさらに求められる。 イ 授業時数の確保については、授業交換や校時交換等で完全授業を概ね達成してはいるが、各種講演会が多くなりがちであり、その精選が必要である。 | B | ・家庭学習時間の調査結果のデータベース化・共有化を全校で取り組むとのことだが、とてもいい試みだと思うし、学力向上に有効だと思う。是非、保護者にも子供の家庭学習状況を伝えてほしい。 ・自習のない完全授業については、急用等で補充がきかない場合や行事が重なり合って授業交換が出来ない場合もあり、100%の実施は不可能である。その時に慌てて準備するのではなく、年間を通してこの時期授業が欠けたらこれをするというものを事前に準備しておけばいいと思われる。 | ・家庭学習時間調査については、各学年独自に実施していたものを、調査時期を合わせて全校で一斉に取り組むこととする。それによって、年次・年度毎の比較等が可能となり、活用幅が広がると期待される。 ・学校行事は例年通りのものであっても、十分に手順や中身を考慮して企画・運営を行い、必要であれば行事の精選や抜本的な改革も含めて検討する。 |
| | 教育課程の研究及び各種研修、授業方法の研究・工夫の励行 | ア 教科主任会議や学力向上委員会を中心に、新学習指導要領に対応した、より効果的な教育課程の編成作業に取り組む。 イ 授業内容の充実を図るため、授業の工夫や教材の研究や開発に取り組む。また、年間を通して研究授業、授業公開、相互参観授業を実施しながら、教師としての力量を高めあう。 | ア 教育課程については、学校の実情、生徒の実態を踏まえた編成が行われた。 イ 研究授業、授業公開、相互参観授業は予定通り行われており、先進校視察、予備校研修等の校外研修についても5教科担当者を中心に行われた。しかし、研修内容を如何にして教員間で共有し、日々の指導に積極的に還元していくかについては必ずしも徹底されているとは言えず、改善が必要である。 | B | ・行事の精選については、教員にとって同じようなものと感じられても、生徒たちにとっては必要と判断される場合は、できるだけ実施して経験させてほしい。 | ・教科主任会議等の場を活用して、指導力の向上をめざした活動を推進するとともに、生徒個人の進路と能力に応じた学習指導の徹底を図るために、学力向上委員会等を効果的に活用し、生徒だけでなく、教員の意識改革も図る。また、相互参観授業の時期を設定するなど、授業力向上に資する施策を実行する。 |
| 2 | 基本的生活習慣の確立と生徒の安全確保 | ア 基本的生活習慣確立のために全教職員共通理解のもとで連携した指導を行う。 イ 安全確保についての様々な情報提供と啓発に努める。 ウ 豊かな人間関係を育む心の育成に努める。 | ア 登校指導は各分掌の協力により全校で取り組むことができたが、規律ある生活態度についての場面指導は全教職員共通理解のもとで日頃からより積極的に取り組む必要がある。 イ 不審者情報については、生徒指導部・学年が連携して随時情報提供に努め、目立った被害はなかった。しかし、歩行者・自転車通学者のマナーについては良好とは言えず、交通安全の意識付け、指導が徹底であった。 ウ いじめについては、アンケート調査の実施や生徒指導部会議での情報交換などを通じて未然防止に努めてきた。 | B | ・雪の降った週末に5～6人の職員の方々が除雪作業を行っていたが、部活動の生徒がボランティアとしてやれないか。これも教育活動の一つであり、生徒たちから奉仕活動をやるうという言葉が自発的に出てくるような日頃からの指導も必要でないかと思われる。勉強以外の奉仕の精神を涵養することもまた、教育活動の一つとして大事であると思われる。 | ・奉仕の精神の涵養については、新一年生の希望者を対象にボランティア活動を組織的に企画し、試行してみる予定である。 ・歩行者・自転車通学者のマナーについては、教員が率先して模範となるように心がけ、また教員間で温度差がないように全職員共通理解のもとに、指導の徹底に努める。 ・カウンセリング委員会を定期的に開催し、不登校等、悩みを抱える生徒の支援活動を充実させる。 |
| | 心身共に健康な生徒の育成 | ア 個々の生徒が抱える問題を、学年・関係分掌等と協力し、組織的に対応する。 イ 「保健だより」等による情報提供を通じて、心身の自己健康管理の啓発を図る。 | ア 個々の生徒が抱える問題については、早期発見・対応が大切であるとの共通認識のもと、学年・保護者・関係分掌等と連携し、組織的に対応するように努めたが、十分ではない点も残っている。 イ 熱中症・流感予防など、印刷物による時宜を得た情報提供をすることができた。 | B | | |
| 3 | 「キャリア教育」に根差した進路指導の充実 | ア 「キャリア教育」を意識した教員研修の導入、本校の進路指導上の問題点及び方向性の議論・共有、先進校の情報収集などにより、本校の目指すべき進路指導のあり方を検討する。 イ 「難関大プロジェクト」の一環として、県の進学力パワーアップ支援事業を戦力的に位置付け、早期に難関大への進学意識を啓発することにより、一年生に対する「仕掛け」を行う。 | ア 「キャリア教育」実践のためのスキルの一つとして、コーチングの教員研修を実施することができたが、「キャリア教育」の考え方については全教職員共通理解にまでは至っていない。本校の進路指導の方向性の議論・共有についても、まだ十分とは言えない。 イ 「進学力パワーアップ支援事業」を戦略的に位置付けて実施し、一年生に対しては当初の目的を達成できた。さらに、新規で「高校生のための志ガイダンス事業」も実施し、二年生に対しても進路意識を啓発することができた。 | B | ・進路に関する指導力の向上、キャリア教育の充実等について、根本的なところで教員間の足並みが揃わないと、学校全体に迷いが生じかねないと思われる。教員間での足並みを揃え、学校全体でステップアップしていただきたい。 ・教員の意識改革には「前年度踏襲」の思考パターンにならないようにすることが重要と思われる。「今年度はどうしたらいいの、どうすべきか」という意識を学校全体で共有するようにしていただきたい。 ・キャリア教育の充実については、校外研修に参加してその研修成果を校内で伝達するのの一つの方法だが、専門の講師を直接招くのも良い考えだと思う。 | ・キャリア教育等の教員研修の計画・立案を教務部、進路部が連携して進める。本校の進学指導とキャリア教育をいかにマッチングさせていくか、その議論に時間をかけていきたい。 ・県支援事業を活用するかどうかについては、年度当初十分吟味し、実施を含めて正しく判断していくことが必要である。進路行事の精選も課題の一つだが、一年生に対する仕掛けは今年度同様に意識的に取り組みたい。 |
| | 継続的に進路実績を生み出すシステムの構築 | ア 三年間を見通した本当に意味のあるプログラムの構築、学年案のプロジェクトをベースに修正・改善の検討により、「難関大プロジェクト」を深化させる。 イ 推薦・ＡＯ入試対策の実施時期や規程等の検討と見直し、アンケートの実施、指導記録及びその整理と保管の検討、これらの入試の戦略的活用とその検討により、対策指導の改善及び方向性を検討する。 ウ 推薦・ＡＯ入試報告会の実施、進路総括会議のあり方及び会議内容等の検討、より意義のある会議の開催により、各学年の取り組みの成果の継承に努める。 | ア 各学年・各教科ともに、講習・添削指導・講演会等、難関大対策に意欲的に取り組んでいるが、北高独自の三年間を見通したモデルプログラムの構築には至っていない。イ 推薦・ＡＯ入試対策の実施時期や規程等は随時検討し、見直してきた。またアンケートも実施し、改善の方向を探る上で貴重な資料となった。指導記録の保管法や戦略的活用については、今後検討を行う予定である。 ウ 推薦・ＡＯ入試報告会では3学年の取り組みを二年生の指導に活用する要望が出されており、成果の継承に繋がる話し合いができた。 | B | ・一年次の子供たちへの働きかけが出発点であり、大切であると思う。一年生の保護者の方々の積極性は保護者対象の学校評価アンケートの結果にもはっきりと出ている。二年生は少しおっとりしている印象だったが、創立五十年記念行事、式典等を経験することで自覚を持てるようになったと思われる。三年生は三年間の積み重ねの成果が表れているようである。何事も保護者の理解・協力が必要であり、今後もPTA活動を大切にしていきたい。 | ・一つの学年の三年間の指導の蓄積を財産として縦の連携を活用してできるだけ残していき、三年間を見通した本校独自の効果的な進路指導プログラムの開発を継続する。 |
| 4 | 第2期指定3年次のSSH事業の推進と成果の普及 | ア これまでの実績・反省点を踏まえ、第2期指定3年次の事業が円滑に展開され、教育効果が最大限発揮されるように指導計画を立てる。 イ 事業評価を的確に行うとともに、その成果の普及を図る。 | ア 事業効果を十分に引き出すことができるように担当者間で事前に協議し、事業の実施形態の見直しを行った結果、いくつかの改善が見られた。しかし、課題研究の指導については、未だに指導目標やルールが十分共有されているとは言えず、今後改善を図っていく必要がある。 イ 各事業においては詳細に評価を行い、研修会の情報提供や報告書の配付を通して普及を図った。一方、設定した事業のねらいに対し、アンケート項目がかみあわないものもあり、修正していく必要がある。 | B | ・今年度は、生徒研究発表会、青森サイエンスセッション等、SSHの校内での研究発表活動に参加したが、生徒たちの活躍は素晴らしかった。特に、一年生から鋭い質問が出たりして、その探究的な態度は非常に素晴らしかった。また一年生からの質問に二年生が一生涯懸命なといった点もよかった。一年生の時から、探究心を育むような指導体制は今後さらに充実させていきたい。 ・保護者対象の学校評価アンケートの結果から、特色ある学校づくりという点では、SSHの果たしている役割は大きいことがあきらかにされており、今後も教職員が協力して、SSH事業を充実させてほしい。 | ・課題研究の指導目標や遵守すべき項目等について、担当者間で共通理解を図るよう努める。 ・各事業のねらいに対する正確な検証が行えるように事後アンケートの項目を見直す。 ・SSH事業が学校全体の取り組みであることを留意し、早期の企画・立案、教員間の十分な連携・情報共有を図るよう努める。 |
| | 校内支援体制の確立 | ア 事業目的について共通理解を図り、各事業に対しての全教職員による協力体制を整える。 | ア 今年度の事業でも多くの教職員が協力を得ることができ、校内支援体制がより強固になりつつあるが、SSH主担当者にかかる負担は依然として大きくなりがちである。また、新規事業では計画の遅れや要項の配付ミスが生じ、情報共有が不十分な面もあった。 | B | | |

| | |
|---------|---|
| (11) 総括 | 昨年度の卒業生が素晴らしい進路実績を残したことを受けて、いかにして同様の実績を残すような進学指導プログラムを構築するかが今年度の課題であったが、きちんとした構築には依然として至っていない。一方、今年度は、創立五十年記念行事・式典が開催されたが、分掌間の連携により教科指導・進路指導面での大きな支障もなく、無事に終えることができた。これらの記念行事・式典や卒業式に臨む生徒たちの姿勢、SSH研究発表会に向かう生徒たちの姿勢は素晴らしく、北高生の意識に何らかの変革が生じ始めている印象を受ける。学校関係者評価委員の方々からの意見・要望も踏まえ、今後も、よりよい学校運営の実現に向けた努力を継続していきたい。 |
|---------|---|